

# 警城時報

昭和二年二月廿一日  
石城新聞社  
石城郡平町  
電話 四四四  
印刷 加納活版所  
發行 石城新聞社  
郵政 郵便特准  
部金 郵政特准  
日刊 一月四日 金五十五  
廣告 一行十四字 日五

## 入山炭礦爭議も

### 無條件で解決

#### 終始警察部長等立會ふ 高野顧問が調停

警城炭礦の労働爭議最中、この顧問高野憲六氏が調停の勞を以て危険分子と認められた労働者四執事となり午後二時から湯本十二名を解雇した入山炭礦は町山形屋旅館に於て宮崎入山炭の後警城炭礦の爭議が下火になつた。加藤勘十、關家博、高野と其に爭議の火の手に見舞は橋本太郎各爭議代表、立會人れんとし、之に備ふるため九州として滋重警察部長、平山高方面から數十名の警備隊を用意等課長、樫村平署長等會同の上するなど全く爭議氣分に満ちた。仲裁者 高野氏の斡旋にて觀があつたので警察當局では協議に入、深重審議の結果午後警城炭礦の爭議が解決を告げる。十一時に至り全く無條件にて共に入山炭礦に久和警部補以満解決する事になつた、而して下五十名の警官をして警戒せしめ、爭議團には高野顧問が個人としてゐたが、滋重警察部長等は金一封(千圓と稱される)を送る事にしたとの事であるが、茲起す事 は此際決して兩者に於て石城地方第一回の労働爭議のためでないとし極力妥協を説きも全部解決を告ぐるに至つた。處あり、遂に二十日入山炭礦わけである。

## 氣の毒な警城炭礦

### 今度は警炭會が不穩

爭議勃發以來二十六日の長きに至つたが會社の御用團體警炭會且り會社の總損害額二十餘萬圓は會社が最初の聲明を裏切つてを起し、警官の延べ人員五千餘人爭議團と妥協握手し遂に解釋の縣下警察力の三分の一を集中し下し様によつては取敢と見られその間検束者三百餘名、收監者百餘名で解決をつけた事に對し八十五名を出し、平町地方財界警炭會では極度の憤激をなし不に甚大なる影響を與へた警炭の満の聲は隨所に爆發し會社當局爭議も十八日全、解決を見るにもこれが鎮撫に奔走してゐるが

## 平町會

### 豫算審議の

平町昭和二年年度豫算審議の平町會は二十五日午前十時召集と決したが豫算は二十七萬圓内外の如くである。

## 警察部長等歸福

本町に滞在中なる滋重警察部長、平山高野等課長等は石城地方の労働爭議が全く解決を告げたので二十一日午後歸福した、尚ほ入山炭礦を警戒中であつた五十名の警官も二十一日全部引あげた。

## 螢雪會總會

平町螢雪會總會は廿二日午後六時より

### 尾町炭屋旅館に於て螢雪會の總會を開催し左の事項を附議す。

- 一、役員改選の件
- 一、豫算、決算の件
- 一、昭和二年年度事業の件

## 勿來運送會社

勿來運送株式會社は此程資本金二十五萬圓で創立されたが重役左の如し。  
▲取締役 赤津庄兵衛、横山太郎、助川虎太郎、根本庸次郎、柴田書店等で發賣してゐる。

## 病氣休業者が増えて

### 困つた健康保險法

争議が起つて以來休業者既に一千名

警城炭礦入山炭坑では健康保險法を利用して實際されるや保險組合を組織したる病氣でないものでも醫師し組合規定の保險金を徴収病氣の診察を受け休業保險金の給付のための休業したるものには賃銀のを受けやうとするもの續出しを六割を支給してゐる。保險組合の數一千人を超えた有様であり施以前に比し病氣の休業が増加會社當局も組合も意外の現象に最近同炭礦に同盟罷業があつたといはる、右につき

## 古い自分の寫眞に

### 愛想をつかした會合

明治廿二年小學校入學者  
二十二年振りて懇親の宴

明治三十二年尋常小學校入學者の懇親會を二十二年振りて二十日午後四時未廣で開き度いから電話をかけるの通知を受けたので發起人の松本榮一君へ電話もして「作チャンか」との幼名に心うれしく定刻に集つて見る。發起人の小野麟太郎、佐川三郎、白土喜伯、松本榮一君が若者がへつた顔をならべて控えてゐる「殺人集まるんだ」「解らないが十五六人だらう」來たもの

### 保險組合となつてゐるところは保險署とは直接交渉がないので這般の消息は知らないが保險法實施の趣旨は不完全に醫療の實施を完全にすといふことも含まれてゐるので今まで賣藥、間に合せたもので

## 店員募集

小學校卒業程度 五名  
商業學校卒業生 二名  
御希望の御方は店則並に詳細御面談可致に付至急御申込被下度候

## 三井吳服店

平町三丁目  
電話 三十八番

## 平模擬市會

市會議員得票	得票数	氏名
三三五票	吉田寅之輔氏	
三二七票	井上貞次郎氏	
二六〇票	高橋龜松氏	
一八八票	齋藤英三郎氏	
一七〇票	綠川喜三郎氏	
一六〇票	三森虎雄氏	
一三七票	白井一郎氏	
一三六票	馬目雅治氏	
一一〇票	酒井清氏	
一一〇票	山野邊東次郎氏	
一一〇票	鈴木昌雄氏	
一一〇票	吉村安次郎氏	
一一〇票	柴田徳二氏	
一一〇票	須田甚太郎氏	
一一〇票	諸橋守次氏	
一一〇票	關内正一氏	
一一〇票	大森勇氏	
一一〇票	馬目武之助氏	
一一〇票	萩原義雄氏	
一一〇票	保坂龜八郎氏	
一一〇票	渡邊源吉氏	
一一〇票	櫻井清氏	
一一〇票	眞井徳次郎氏	
一一〇票	山崎徳次郎氏	
一一〇票	山崎徳次郎氏	
一一〇票	猪狩庄平氏	
一一〇票	阿部政右衛門氏	
一一〇票	遠沼龍平氏	
一一〇票	草野順平氏	
一一〇票	高倉精一氏	
一一〇票	諸橋正次氏	
一一〇票	諸橋正次氏	
一一〇票	多田正見氏	
一一〇票	杉本榮一氏	
一一〇票	木田藤次郎氏	
一一〇票	鈴木邦三郎氏	
一一〇票	佐藤武三氏	
一一〇票	山崎武三氏	
一一〇票	高老原章四郎氏	
一一〇票	千原彦治氏	
一一〇票	諸橋元三郎氏	
一一〇票	關内喜久次郎氏	
一一〇票	山野邊大平氏	
一一〇票	山野邊大平氏	
一一〇票	市原守馬氏	
一一〇票	中野康平氏	
一一〇票	吉田延太郎氏	
一一〇票	長瀬隆治氏	
一一〇票	坂本隆藏氏	
一一〇票	熊澤次郎氏	

### 警炭爭議誌

約一ヶ月に亘る争闘を続け少からず世間の耳目を聳動せしめ遂には議會の問題とまでなつた警炭爭議の経過を略述すれば、屢報の如く小野田坑飯鍋頭山代吉宗の誠意に端を發し極左傾團體の策動となり其後廿日頃まで引續き小野田方面一局部の騒ぎとして餘り注意されて居なかつたが廿一日頃から警炭全山に暗雲低迷し廿五日には事重大として平警本部を置き警戒に當ることとなり廿六日午前六時争議の火蓋は綴坑に於て切られた。坑夫組合では争議資金の調達をなし又印刷物を配附する一方會社も赤印刷物を配附し此處に猛烈なる宣傳戦となる。

▲二十六日 關東評議會の渡邊義通氏を始め左傾團體は悉く退去を命ぜらるるに至り争議團體は坑夫組合に移る流言蜚語が盛んに行はれ二十七日午後坑夫組合では十二ヶ條の要求事項を會社に提出すると同時に示威運動をなし益險惡の氣に閉ざさるるに至る、同日小野田坑總罷業す。

▲二十八日 縣高等課長の出馬となる、同日坑夫組合員二名の同組合支部に於て傷害事件を惹起す、高坂の入坑者三分の一に減す。

▲廿九日 綴坑總罷業に入る警官は二百余名に達し不眠不休で警戒の任に當る。

▲卅日 午後常警炭礦業界連

事長阿部吾市氏來山す。  
▲卅一日 一時沈滞し持久戰の傾きとなる。  
▲一日 前日同様双方共戦ひ疲れを帯び倦怠の色濃くなる同日争議團と會社側が樫村署長の仲裁で綴運輸派出所に面會し協議遂に決裂す。  
▲二日 仙臺監督局武藤鐵政課長來山。  
▲三日 争議は益々惡化す、同日坑夫組合廣瀬貞外八名檢舉さる。  
▲四日 引潮となり益倦怠の色濃くなる。  
▲七日、八日 御大喪にて全山靜肅となる。  
▲九日 警炭會と坑夫組合との大衝突となり組合員九十五名検査さる、内検査局に送られたる者三十余名、藏重警察部長再び來山、同日平劇場で坑夫組合主催争議批判演説會を平劇場に開催す。  
▲十二日 九日朝に引致された者の内三十名收容され更に四十名大検査が行はれ騒擾事件となる。  
▲十三日 双方共極度に激昂す。  
▲十四日 自由法曹團來平、平劇場で批判演説會を開催す。  
▲十五日 又引潮となる。  
▲十六日 午後十時警炭會員三十二名檢舉さる。  
▲十七日 午後鑛山監督局鐵政課長仲裁に入る。

### 投票 模範平市會議員

親戚總代 栗田 石太郎  
友人總代 栗田 清之進

### 電話二三七番...配達迅速

●特長

- 一、品質の一定せる事
- 二、正貫取引の爲目方の正確なる事
- 三、大量購入の結果買入値段安き事

一日の採炭三百五十車的大量生産  
常警第一の優良炭田より産出する

阿部石炭商店  
平驛前

### 阿部石炭商店

辯護士長谷川陸郎 法律事務所  
主任 渡邊 忠次郎  
印刷物の御用は...加納活版所

### 平石菊雄儀二十日午後四時腦溢血症にて死去致候間此段謹告仕候

追而二月二十二日午後一時から二時まで植田町常春院に於て告別式施行仕候  
昭和二年二月二十日

男 栗田 石太郎  
親戚總代 栗田 清之進  
友人總代 栗田 成通

松ヶ岡公園の冬の情景!!!  
静かに深みゆく冬の公園池畔に御來遊あれ

松ヶ岡公園  
電話二二六番

平町五丁目角 三軒湯藥屋  
代理店

平町五丁目角  
電話二二六番

四日目満員 六日目大入  
水戸黄門 平館

### 平町病院 案内

腸胃科 専門  
内科 専門  
婦人科 専門  
淋病 専門  
皮膚科 専門

平町病院  
電話一七〇番

高久病院  
院長 高久 忠  
平町電話一三五

大和田醫院  
耳鼻科  
電話一七〇番

産科婦人科  
二月より診療開始  
醫學士野秋善直  
尚ほ院長菊地博士は毎日午前九時から午後四時迄又何時でも往診します

菊地博士の住所  
舊城跡三ノ丸(丹後橋)  
共済病院  
看護婦至急募集

原齒科醫院  
平町土橋通り  
電話三一三番